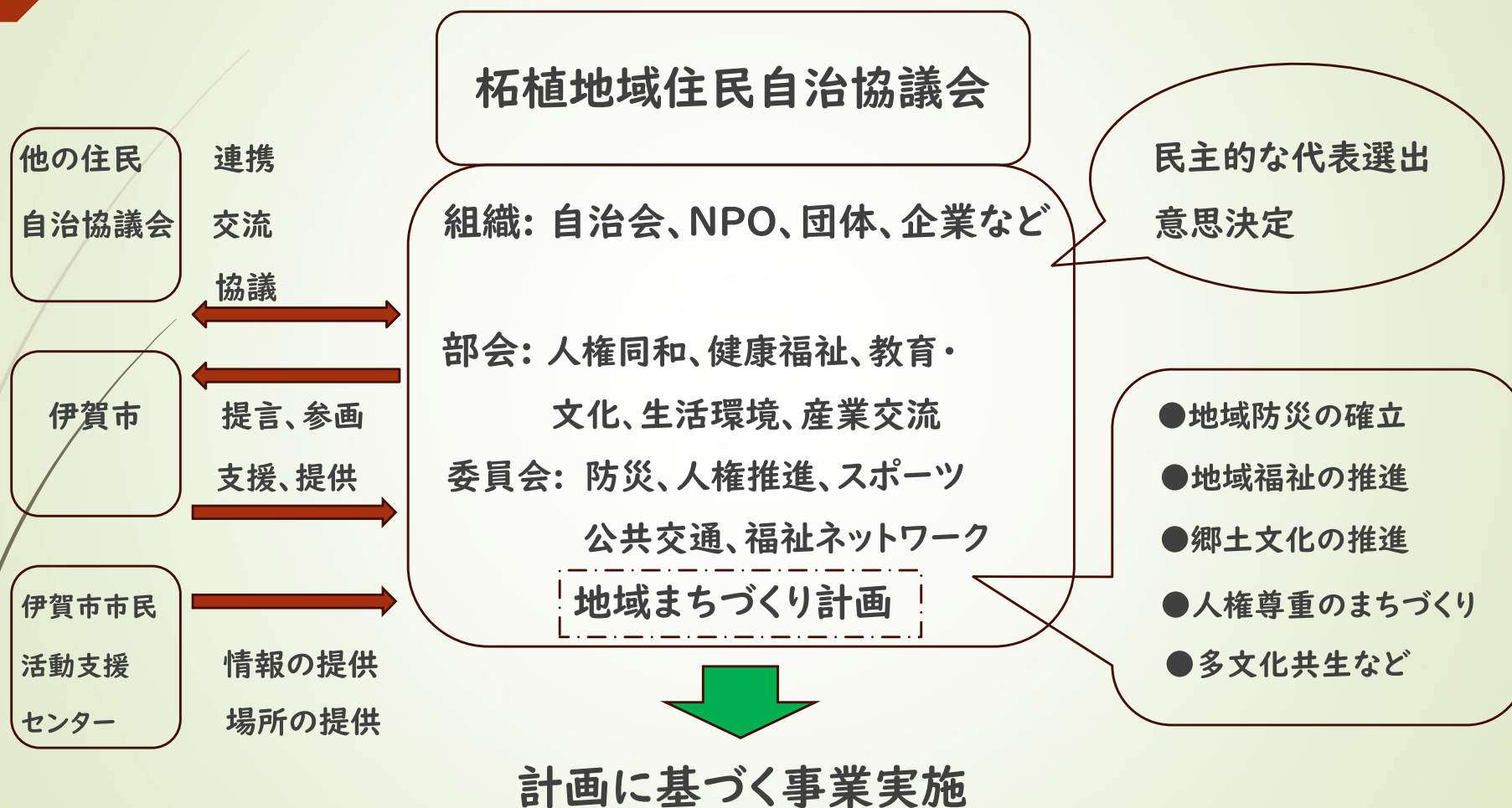


これまでのまちづくりへの取り組み経過とこれからの取り組み概要

2025 柘植地域まちづくり協議会
会長 宮田 隆司

住民自治協議会の概要



事業計画の事業とは？

課題を解決すると価値になり、価値提供を一過性

で終わらせることなく、継続的に届けていくよう

にすること。

大きく地域・社会に貢献するような事業。

本質を進めるためのキーワード

「参加」「話し合い」「連携」「課題解決」

ビジョンづくり

「どのような地域にしたいのか」

組織づくり

「どのような体制で実現するのか」

地域づくりを進めていくために(全員参加型で課題を推進する)

理想・あるべき姿



現 状

- ・現状はどうか？
- ・何に困っているのか？
- ・地域にとって大切なものとは？
- ・どんな地域にしたいのか？
- ・どんな取り組みが必要なのか？

まちづくりの経緯とこれからの方向

- ① キャッチフレーズといがまちの本質
- ② まちづくりの活動と狙い
- ③ まちづくりへの動向と歴史は動いた(あれから20年)
- ④ 今後の課題と傾向
- ⑤ コロナ後のまちづくり
- ⑥ つげの特徴・特質は何か?
- ⑦ プラン・ドゥ・チェック・アクション
- ⑧ 基本方針とスローガン

① キャッチフレーズとつげまちの本質

1.地域づくり

地域の暮らしを良くし、支える。困りごとを解決し、大切なものを守る。

2.地域おこし

地元の経済・産業・文化などの活性化を図り、発展させること

3.地域の活性化

施策や活動を通じて、地域の経済や、社会、文化の活動を活性化させたり、住人の意欲を向上させたりして、地域を維持発展させること。

6

4. 地方創生

人口の急速な減少と加速度的に進む超高齢社会に対して、地域の特徴を活かし自律的かつ持続的な社会を作り出そうということ。

5. まちづくり 「身近な居住環境を改善」し、「地域の魅力や活力を高める」

② まちづくりと活動の狙い

■ソフト部分での対応

- 1.仕事(特に役員の役割)の明確化(どんな取組が必要なのか)
- 2.人材の育成(どんな人材を求めるのか)
- 3.イベント・事業の維持継続(地域の発展に持続可能なこと)
- 4.構成員の活性化と情報発信(現状はどうか、何に困っているのか)
- 5.文化(人、物)の顕彰促進(地域にとって大切なもの)
- 6.地域企業との連携強化(地域の一体化と防災力強化)

③まちづくりへの動向

1990年に代表されるもの

規制緩和⇒地域の解体

⇒外国品の輸入拡大⇒地方自治体の衰退

中心商店街の存続の危機

歴史は動いた!!

「小さな政府」の一環として指定管理者制度開始により、各種事務や連携等の業務が「まちづくり協議会」に委託された。

行政指導・支援によって事業展開



住民自治・住民主体で地域を元気に

2004年(アテネオリンピック)69名の構成役員で
柘植地域まちづくり協議会が発足。(6部会)

全国的に代表されたもの

Ⅰ.B級グルメ Ⅰ.観光イベント Ⅰ.ゆるキャラ Ⅰ.道の駅

わがまち、あれから20年!!

- ・ つげまちづくり全体の組織の活性化は？
- ・ 非効率の排除はなされたのか？
- ・ 目標設定はクリアしたのか？
- ・ 6部会で地域課題が解決したのか？ etc

④今後の課題と傾向

1. 公金に依存してきた自主的な活動が自主性・自律性を更に高めていく必要がある。



2. 地域コミュニティにおける民主的なルールづくりの展開



キーワードは？

3. 時代「持続可能性」2030年の達成に向けてのSDGsの取組み

⑤コロナ後のまちづくり

■市・県・国・世界と協調

●17の目標 ●169のターゲット ●232の目標

まちの住人の困りごとは何なのか?をリサーチし、その内容を行政へはハード面を訴え、自治会・まちづくりではソフトの対応を推進する。

17の目標と部会の融合

- 1.貧困をなくそう 2.飢餓をゼロに 3.すべての人に健康と福祉を
4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
6.安全な水とトイレを世界中に 7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに
8.働き甲斐も経済成長も 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
10.人や国の不平等をなくそう 11.住み続けられるまちづくりを
12.つくる責任使う責任 13.気候変動に具体的な対策を
14.海の豊かさを守ろう 15.陸の豊かさを守ろう
16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう

11 ⇒ 3 ⇒ 4 ⇒ 5 ⇒ 17が基本的な目標

⑥つげの特徴・特質は何か？

- ➡ 自然環境・景観
- ➡ 文化
- ➡ 歴史
- ➡ 居
- ➡ 食
- ➡ 住
- ➡ つながり(地域・企業)
- ➡ 住民の声

⑦プラン・ドゥ・チェック・アクション

協議会として誰がやるのか？

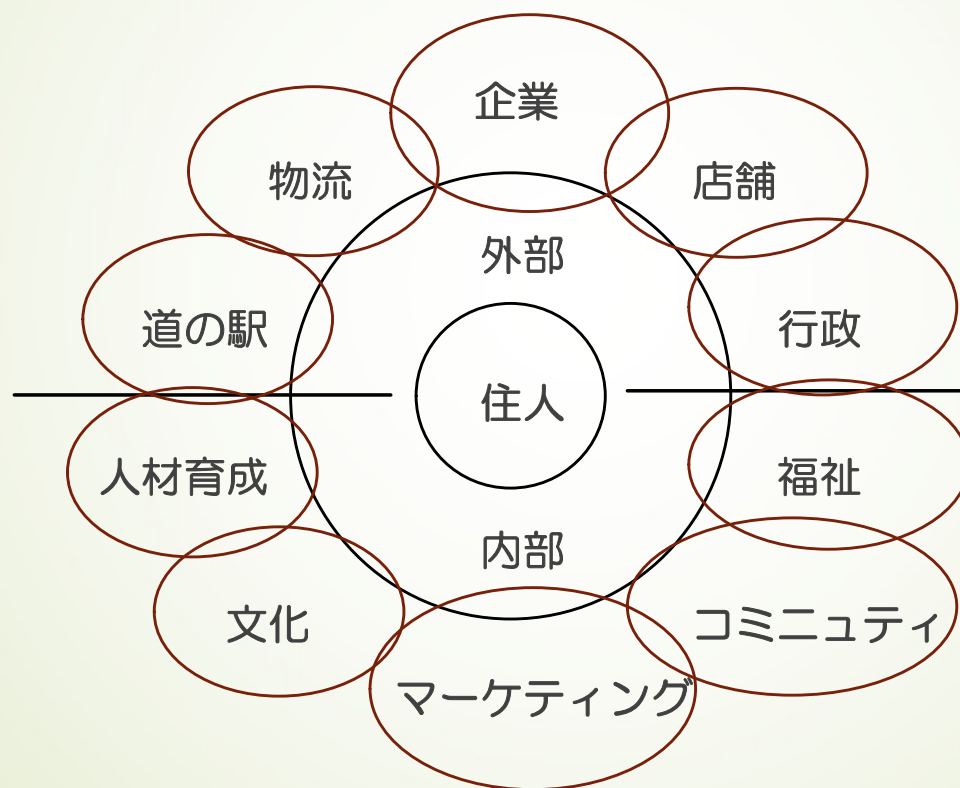
1. 組織(部会・委員会の存在意義)づくり
2. 目標・指標の設定(立ち上げ時と比較)
3. 進捗評価の方法(役員交代後も続けられる)
4. 住人の満足度測定方法
5. 三まちとの融合

⑧2025基本方針とスローガン

《持続可能な全員参加のまちになっている》

- 1.福祉体制の確立と運営。
- 2.コミュニケーションの拡大。
- 3.生涯学習体制を拡大し地域と密着する。
- 4.文化遺産を顕彰し将来に亘って継続する。
- 5.地域が一体となった防災体制づくり。
- 6.正しく、解かりやすい情報伝達をする。

全員のイメージ



全員参加とした理由



意外にも、市民センターが設定された背景を知らない。(老若男女)問わず
2003年の「小さな政府」化。目的 ➡ 中央政府の管轄を減らす。

地方自治体へ「公務のアウトソーシング」

市役所・警察署・消防署・病院・学校・図書館・博物館・技術館・展示施設・体育館
プール・公園・上下水道施設・道路・介護施設



これらを公務員として雇っていくにはコストがかかりすぎる
(施設、行政のコスト削減) ⇒ 外部団体への業務委託

【指定管理者制度】

まちづくりの最重要テーマ

1.福祉体制の確立と充実



攻めと護り・守りの体制

超高齢者社会2025年問題と団塊ジュニア世代2040年問題への

1-1.持続対応可能な準備

今後おこり得る
現 象



- ・人は減る
- ・高齢者が増える
- ・頼る人はいない
- ・お金(税収)も減る

全員参加 I

攻めと護り(守り)の体制づくりの考え方

健康福祉部会

攻めの体制づくり

- ・ 体力向上、維持の活動
- ・ ウォーキング・ハイキング
- ・ ラジオ体操 ・ 元気な高齢者

関連部会

教育文化部会、スポーツ
推進委員会(カジュアル)

柘植ネットワーク会議

「困りごと」や「気になること」を話し合う

- ・ 公的な制度では対応できない日常生活上の多様なニーズがある中、地域の課題やニーズを把握、共有し、地域の課題解決に向けて検討する場。(護り・守りの体制づくり)

関連部会

公共交通委員会、産業交流部会、他

まちづくりの最重要テーマ

2.コミュニケーションの拡充

構成する団体・住民全員が参加する広報づくりを目指す

2-1.企業と地域の連携を強化し、ノウハウを活用する(災害対策等への対応)

2-2.取材活動を強化し、有名つげびとの登用(新聞等)

2-3.地内外国人との他文化共生事業の準備(74名)

2-4.親しみやすく、住人の憩いの場として活用できる市民センターづくり。

全員参加Ⅱ

コミュニケーション拡充の考え方

構成団体への取材活性化

- 多文化共生活動
 - 地元企業との交流
 - PTA、老人クラブ、学校
民生委員、防犯協会、
社協、消防団など
- 関連部会 産業交流・生活環境
教育文化部会

全員登場新聞

まちづくりだより

編集後記

住人への取材活性化

- 名人(野菜・他ものづくり)
 - 器用貧乏な人
 - …そっくりさん
 - 自慢のペット、バイク、車
 - まちに継続的に期待する内容
- 関連部会 教育文化・人権同和部会

まちの特徴が見えてくる

まちづくりの最重要テーマ

3.生涯学習体制の確立

活動の立案と企画を見直しメニュー化する

3-1.都美恵太鼓、斎王。の活性化と文化の顕彰

3-2.音楽やスマホ・PCを通して心身の豊かな人づくりを進めていく。

3-3.特に弱者(高齢者、こども、障害者の意見収集と伝達手段の策定

全員参加Ⅲ

生涯学習=文化遺産との考え方

生涯学習(日常生活そのもの)

- 言葉・手紙・新聞・雑誌
- 音楽(聴く・奏でる・歌う・)
- 新スポーツ、競技、の導入と展開
- 人権(正しく学び正しく伝える)
- ものづくり、飼育、植物の育成
- 柘植の未来を考える

文化人・遺産の顕彰

広く世間に知らしめ顕彰する

- 遺跡、神社、仏閣
- 歴史人物
- 自然
- 文化活動の再開

関連部会 スポーツ推進委員会(カジュアル)

産業交流部会。人権同和部会

教育文化部会

正解はない!!

みんなでベクトルを合わせて
しっかりと推進する。